

運動機能、言葉の発達を促すために  
～好奇心や探索意欲を  
満たすあそびを通して～



社会福祉法人 愛護会

金ヶ崎保育園

保育士 熊谷 みゆき

## 1、研究主題

「運動機能、言葉の発達を促すために」  
～好奇心や探索意欲を満たすあそびを通して～

## 2、設定理由

1歳児にとって、自由に歩きまわる・走りまわることは楽しいあそびのひとつである。行動範囲が広がり、見るもの・聞くものすべてが興味をかきたてよつ這いから歩行へと発達し自由に使えるようになった手で、次々に引っ張る・投げる・落とす・叩く・ちぎるなど盛んに探索を繰り返す。保育所保育指針には、「環境」のねらいとして「身近な環境に親しみ、自然と触れ合う中で様々な事象に興味や関心を持つ」とある。また、「3歳未満児の保育に関わる配慮事項」には「探索活動が十分できるように、事故防止に努めながら活動しやすい環境を整え、全身を使う遊びなど様々な遊びをとりいれること」と記されている。この時期の子どもたちは興味のある物に自分から関わり、満足するまで触ってあそぶことで外界に対する好奇心や関心を持つようになる。探索活動は1歳児にとって大切なあそびと捉え、好奇心や探索意欲を満たすあそびを楽しむ中で、運動機能の発達・言葉の発達が促されるのではないかと考え本テーマを設定した。

## 3、研究のねらい

運動機能の発達・言葉の発達を促すための好奇心や探索意欲を満たすあそびを探る

## 4、研究の仮説

- ・保育者との密な信頼関係の中で好奇心や探索意欲を満たすあそびの工夫が運動機能・言葉の発達につながっていくのではないかと考える

## 5、研究の内容・方法

### ①理論研究

### ②保育実践

- ・戸外あそびや室内での発達に合わせたあそびは好奇心や探索意欲を満たす良い活動と捉え、安全で安心できる環境を整え子どもの発見や驚きを見逃さず共感し発達に合わせたあそびを沢山取り入れて実践していく
- ・好奇心や探索意欲を満たすあそびの基盤は、保育者との安心できる関係であると考え、一人ひとりとの応答的な関わりを大切に信頼関係を築いていく

## 6、研究実践

### ①理論研究

保育雑誌「0・1・2歳児の保育」より

—— 3歳未満児にはまずその子らしさが輝く探索活動を ——

子どもたちの遊びの根は、すべて探索活動にある。探索活動は「自分を探り、遊びだす力の根を育てる行為であり、活動のエネルギー源」となり、「自分らしさが育つ土台」である。

—— 探索活動を通して自分に出会う ——

子どもは体内からあふれるエネルギー（好奇心や興味・関心）によって内側の心の扉が開かれ、行動が起きる。何らかの心が動いて行動になる。その内なる求めに従って行動するからこそ「子どもの行為は自己表現」で、今、自分は何をしたいのか？自分のしたいことを十分に楽しめられれば、そこに自分としっかりかかわれる世界が築かれ、自己発揮、自己充足の喜びが大になる。

子どもは自分の求めに従って行動してこそ自分に出会い

「こんなことができる自分」

「こんなことをしていると楽しい自分」

「こういうものに興味がある自分」

を感じとっていく。行動しながら「自分とは、どういう人間なのか？」をとらえられるようになる自我の働きが活発に促され、これこそ探索活動に欠かせないキーワードである。

「0・1・2歳児の心の育ちと保育」 今井和子著

—— 模倣や探索活動を十分に ——

保育所には家庭のような台所や居間が子どもの身近な所がないので、大人が日常行う台所仕事や生活行動など見られないことが残念である。それだけでなく保育室が整然と片付けられていて家庭にあるようなものをいじくりまわす機会や、さわっていいものとそうでないものなどを認知していく機会が少なすぎるように思う。なぜなら、幼児の探索欲求は、身近な大人への関心や模倣から生まれると考えるからである。

探索活動には、周囲の興味あるものの性質や扱い方などを知り、状況に応じて適切に使用できるようになっていく力と、そのものを他のものに見立てて活用する力が育まれるように思う。前者は目的遂行にふさわしい物の選別力やいろいろな物を関連づけ組み合わせたり工夫したりする力になり、後者は、子どもの想像力を豊かにしていく内的発達力になっていくと考えられる。

—— 共感されて育つ真の自己 ——

自分の感情やイメージをまだ言葉で表現しきれない乳幼児は、大人の言葉を通して自己確認が強まっていく。大人から共感されて育った子どもは、自分が今何を感じているか、何をするつもりだったのか、確認できるようになっているので、自己肯定感（自尊感覚）が育ち、情緒も安定する。自分をしっかり捉えさせるのに大人の共感の言葉がいかに作用するかを考えないわけにはいかない。

<理論研究をして学んだこと>

私たちが、危険のないよう安全に過ごせる保育環境を整えるのは当然のことである。その中で探索意欲を満たすため、より楽しいあそびを経験できるよう保育者が工夫することが強く求められている。探索活動は言葉・運動機能の発達だけでなく、様々な面の発達に欠かせない、1歳児にとってとても魅力的なあそびであること。また、一緒に過ごす保育者の関わりのおおきさを再認識させられた。

②保育実践

1期（4・5月）

<子どもの姿>

0歳児からの進級児21名で新入園児はいないものの、新しい保育者・環境（保育室）になったことで、気持ちが不安定な子がみられる。月齢差・個人差が大きくあそびの姿・食事の姿が様々である。又、まだ歩行のできない子も4名いる。言葉で思いを表現できないため、噛みつきやひっかきなどもみられる。

子どもの姿	保育者の援助と配慮
<p>(散歩)</p> <p>高月齢児は保育者と手をつなぎ、低月齢児は散歩車に乗ってでかけ、地域の人に会うと「こんにちは」「バイバイ」と挨拶したり手をふる姿がある。</p> <p>コースを分けての散歩では低月齢児も散歩車から降りて歩いたり、這った</p>	<ul style="list-style-type: none"><li>散歩リュック（着替え、タオル、ティッシュ、ビニール袋等が入っている）、散歩車を用意し一人ひとりの体調に留意し天候気温を見ながら散歩コースを決める。</li><li>楽しく散歩が出来るよう歌をうたい、目にしたものに興味を示したときには、その都度、言葉にしてあげるようにする。</li><li>高月齢児は園周辺を手をつないで散歩するコース、低月齢児は目的地が</li></ul>

<p>り、座ってあそぶ時間が増え、気になる物を見つけると手を伸ばして触れ喜ぶ姿が多く見られる。</p> <p>室内では、機嫌の優れない子も散歩に出かけることで気分転換になり、保育者の歌や言葉かけに耳を傾けたり、一緒にうたうようにして楽しむ姿がある。</p>	<p>近いコースと2グループに分け、低月齢児の散歩車に乗っている時間より降りて自然に触れあそぶ時間を多くできるよう配慮する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自然などに目を向け楽しめるよう言葉かけをする。楽しい気持ちに共感し、気持ちの交流をはかっていく。</li> </ul>
<p>(広場でのあそび)</p> <p>広場へ行き保育者をつないでいた手をはなしたり、散歩車から降りると時々保育者の姿を確認しながら、保育者の側を離れて興味のある所へ歩いていく姿がある。アリを見つけて「いた」「まってー」と触ってみようとする。「あった」「かわいいね」と草花にふれ表情良くあそぶ。</p> <p>まだ歩行の始まらない子は、ブルーシートの上に座っていたが、すぐに這いだしシートから出ていき砂や草花に触れてあそびはじめる。</p> <p>Y男は散歩車から降ろすと歩くことを喜ぶがまだ歩行が不安定で尻もちをついてしまうと地面に手をつくのが嫌で自分では立ち上がることができず保育者に起こしてほしいと訴える。保育者が地面に両手をついたり、手のひらに砂や小石をのせる姿をじっと見ているが、自分の手のひらに砂をのせられると嫌がる。3日後、やは</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・散歩リュック、散歩車、ブルーシートを用意する。複数担任なので保育者の位置付きに配慮し安全にあそぶことができるように見守ったり、一緒にあそんでいく。</li> <li>・「アリさんもお散歩してたね」など子どもの言葉に丁寧にこたえたり、うたい、より興味を持てるようにしていく。花を摘んであげたりして戸外であそぶことを楽しめるよう配慮する。</li> <li>・まだ歩行の始まらない子は散歩車から降ろし、ブルーシートの上に座らせて保育者が摘んだ花を手渡し自然に触れることができるようにする。自ら這いだし、砂や草花に触れる姿を見守り楽しさに共感していく。</li> <li>・Y男に対しては保育者自身が地面に両手をついて見せたり、保育者の手に砂や小石をのせて見せた後、本児の手のひらにも同じように砂や小石をのせてみたりと少しずつ砂に触れることに慣れていけるように働きかけていく。</li> <li>・座っているY男の興味を引くような</li> </ul>

<p>り初めは嫌がっていたが、保育者の言葉かけで自ら地面に手をつき立ち上がることができ、その後は尻もちをついても起こしてほしいと訴えることなく、自ら立ち上がりあそぶようになった。</p>	<p>言葉かけをし、「いってみよう」と誘いかける。自ら立ち上がることができた姿を沢山褒め、一緒に喜んでいく。</p>
<p>(砂あそび)</p> <p>高月齢児は、シャベルでバケツに砂を入れて「いっぱい」と夢中であそぶ。保育者が型抜きをしてみせると手やシャベルで崩すことを楽しむ。</p> <p>低月齢の R 子・R 男はシャベルは使わず、両手で砂を握って感触を楽しんでいる。T 男・M 子は砂を口に入れようとする姿がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人ひとりが砂の感触を楽しみながら、じっくりとあそべるようシャベル等は数を十分に用意し、危険の無いよう気をつけ保育者も一緒にあそんでいく。</li> <li>・R 子・R 男はまだ道具（シャベル）を使ってはあそべないが、砂の感触を楽しむように何度も繰り返しかきあそぶ姿があるので見守ったり、楽しい気持ちに共感していく。言葉かけをしながら一緒にあそびを楽しんでいく。</li> </ul>
<p>(ままごとあそび)</p> <p>高月齢児は「いた……ます（いただきます）」と食べる真似をする。保育者と「どうぞ」「どうも」とやりとりを楽しむ姿がある。</p> <p>低月齢児の中には、ごちそうや皿を投げる子もいる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テーブル、皿、ごちそうを用意し「いただきます」「おいしいね」「〇〇ちゃん どうぞ」と子どもたちと一緒にあそんでいく。「これは何かな」「いちごだね」「これはお魚」など語りかけ発語を促していく。</li> <li>・低月齢児の側につきあそび方を知らせながら一緒にあそんでいく。</li> </ul>
<p>(ビニールテープはがし)</p> <p>高月齢児は貼ってあるビニールテープをはがし、別の所に貼ってあそぶ。保育者や他児の手に貼る姿もある。</p> <p>低月齢児の中には、うまくはがすことができない子もいるが保育者の援助ではがすことができ満足そうな表情</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・数色のビニールテープを用意し適度なサイズに切り貼っておく。自分ではがすことが出来た時、貼ることが出来た時には沢山褒め手指を使うあそびを十分に楽しめるようにする。</li> <li>・はがすことが出来ない子には角を少しはがしてあげるなど援助</li> </ul>

を見せる。	していく。はがすことができた喜びに共感していく。
-------	--------------------------

<考察>

～散歩～

2 1名全員同じコースにするのではなく、高月齢児・低月齢児とグループ分けしたことで、高月齢児は電車を見に行くなど歩く喜びを存分に味わえ、同じコースで出かけると散歩車に乗っていることが主になってしまう低月齢児も散歩車から降りてあそぶ時間が増え両者のあそびを保障することができて良かった。

～広場でのあそび～

手をつないで歩くよりも自由に自分の行きたい所へ歩いていくことが楽しい1歳児にとって、広くて安全な広場での活動は好奇心や探索意欲を満たすことのできるあそびと考える。低月齢児はまだ拾った物を口にすることもあるので、保育者の位置付き等にも十分に配慮していくことが大切だと考える。

～砂あそび～

一人ひとりが夢中であそぶことができ、砂場道具の取り合いになることもなく時間いっぱい楽しむことができた。

～ままごとあそび～

保育者と一緒に食べる真似をしたり、「どうぞ」「どうも」の簡単なやりとりを楽しむ中で保育者の言った言葉を模倣して話す姿もみられるので、ゆっくりはっきりと話すよう努めた。

～ビニールテープはがし～

高月齢児は昨年度から行ってきたあそびということもあり、はがす・貼ることを繰り返し楽しむことができた。低月齢児の中には、はがすことが難しい子も見られるのではがし方を知らせながら楽しく手指を使うあそびが出来るようにする必要がある。

4月は、なかなか新しい環境に慣れず気持ちが不安定になっている子もいたので、なるべく戸外に出て気分転換をしたり、安心して過ごせるようふれあいあそびを取り入れながら、一人ひとりとの信頼関係をつくっていくよう心掛けた。保育者の側で黙々と砂あそびを楽しんだり、保育者の姿を確認しながらトコトコ歩いていき、アリをみつけたり、自然物に触れて喜んであそぶ姿から、保育者の存在が安心できるものとなってきていて落ち着いて過ごせるようになったと考える。

2期（6～8月）

<子どもの姿>

新しい環境・保育者にも慣れ一日を通して機嫌良く過ごしている。戸外あそびを好み、戸外に出る支度をはじめると待ちきれない様子が見られる。室内ではピアノやロピアノ・戸外ではロピアノに合わせて身体リズム運動あそびを楽しんでいる。玩具の取り合いなどのトラブルが増えている。5月末に2～3歩、歩き始めたがまだ這う姿の子が2名いる。

子どもの姿	保育者の援助と配慮
<p>(散歩)</p> <p>用水路の小さな魚・ザリガニをみつけ、「いた!」「さかないっぱい」と興味深そうにみている。その後、同じ道を通ると「さかないかな」「ザリガニは?」と覗きこむようになった。目にした様々な物に興味を示し、保育者と簡単なやりとりをしながらゆっくりと歩くことを楽しむ。</p> <p>低月齢児も散歩車から降りると良い表情を見せ交替で歩くことを楽しんだ。途中で疲れて座りこむ子もみられる。</p> <p>歩いている途中何度もくつが脱げてしまう子がいる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・散歩リュック、散歩車を用意し、一人ひとりの体調や天候気温を見ながら散歩コースを決める。車の通る場所では安全面に十分留意する。</li> <li>・子どもが興味のあるものをみつけた時は、立ち止まって見たり触れたりできるようにゆっくり歩いていく。子どもの言葉に共感し、言葉かけを工夫しながら、より興味を持てるようにする。</li> <li>・低月齢児も歩いて散歩する経験ができるよう交替で散歩車から降りして手をつないで歩くようにする。無理なく歩けるよう歩くペース等に配慮する。</li> <li>・自分でくつを履くことができるようになっている子も、出発前にしっかり履けているか確認する。サイズがあっていない子の保護者に知らせる。</li> </ul>
<p>(広場でのあそび)</p> <p>草花を手にとったり、「よーいドン!」と元気に走りまわってあそぶ。でこぼこのところを楽しそうに歩いている。E男は、「だんごむしいるかな」と石をひっくり返して探す姿がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・散歩リュック、散歩車を用意する。真夏は気温が高くなる前の時間帯を選んだり、木陰であそぶようにする。</li> <li>・一人ひとりが、思い思いに歩いたり、</li> </ul>

	<p>走ることを楽しめるように安全面に留意しながら一緒にあそんでいく。子どもの言葉を逃さず丁寧にこたえていく。</p>
<p>(砂あそび)</p> <p>バケツに砂を入れ、いっぱいになるとあけ、繰り返しかそぶ。「おやま」「できた」と小さな山を作り、保育者のまねをして型抜きを試みようとする。</p> <p>低月齢児の中には砂を口に入れようとする子がいる。</p> <p>6月下旬、Y男、M子は裸足での砂あそびを嫌がる姿がある。砂場の枠に座ってあそぶことを続けながらも、保育者が用意した電車の玩具につられるようにY男が自ら砂の上に立ち少しずつ歩いてあそび始めた。Y男・M子ともに7月下旬には自ら砂の上を歩くようになる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人ひとりが砂の感触を味わいじっくりとあそべるよう砂場道具は数を十分に用意する。</li> <li>・崩すことから、作ることへとあそびが変わってきているので、一人ひとりの作ったものや言葉に「上手だね」・「おいしそう」等こたえながらあそびをより楽しいものにしていくようにする。</li> <li>・砂を口に入れようとする子や興味を示さない子の側に位置づき、言葉かけをしながらあそんでいく。</li> <li>・Y男、M子は砂の上を裸足で歩くことを嫌がるので、砂場の枠に座らせシャベル等を使ってあそぶなかで、少しずつ足に砂をかけたりして慣れさせていくようにする。Y男が好きな電車の玩具であそんで見せ、あそびに誘いかけていく。</li> </ul>
<p>(水あそび)</p> <p>「あめだ！」とペットボトルのシャワーであそぶ。保育者の真似をして、保育者の歌にあわせて、馬やワニになってプールの中を這ってあそぶ。S男・A子は、カップで水をすくい「おはなみずあげる」とプランターの花に水をかける姿がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水あそび用の手作りおもちゃ、洗面器、タオル（個人用）、足ふきマット、バケツを用意し一人ひとりの体調をみながら水あそびを進めていく。歌を歌いながら、プールの中で馬やワニになってあそんで見せていく。プール内での転倒等に十分注意する。</li> <li>・「お水気持ちいいね」など楽しい気持ちに共感したり、歌をうたい水の</li> </ul>

	<p>感触を楽しみあそべるよう配慮する。1歳児クラスは6～7人くらいが入る小さめなプールを利用して、交代でプールに入ってあそぶようにする。</p>
<p>(泥んこあそび)</p> <p>両手・両足で感触を楽しむ。シャベルをもってきてあそびはじめる。低月齢児の中には、シャベルを口の中に入れてようとする子がいる。</p> <p>S男・N子・M子は汚れることを嫌がり、あまりあそびを楽しめない。手足だけが泥んこになっていた子も回数を重ねるごとにTシャツやズボンまで泥んこにして汚れることを気にせずあそぶようになっていった。</p> <p>E男・H子・A子・Y子・S子はバケツやフライパンで水をすくい保育者の真似をして砂場まで運ぶことを繰り返し楽しむ。砂場に着く頃には水は半分くらいに減っているが、自分で運んだという満足感に満ちた良い表情を見せる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バケツ、ジョウロ、シャベル、足ふきマット等を用意し、体調に留意しながらあそびを進めていく。</li> <li>・手足で感触を楽しめるよう言葉かけをしながら一緒にあそんでいく。口に入れたりしないよう十分に気をつけ存分にあそべるようにしていく。</li> <li>・泥んこが手についたりするのを嫌がる子にはまず、シャベルを使ってあそばせながら少しずつ慣れさせていく。楽しくあそぶことができるよう保育者があそんで見せたりしながら繰り返し誘いかけていく。</li> <li>・保育者がバケツで水を運んで見せていく。真似して水を砂場まで運ぶ姿を見守り、満足できるまであそばせ、楽しい気持ちに共感していく。</li> </ul>
<p>(ままごとあそび)</p> <p>「おにぎり」「いちご」「だいこん」等と言いながら動物の口（ファスナー）を開けて食べさせている。「いっぱいね」「モグモグ…」</p> <p>「おいしいよ」と楽しむ。S男・Y子・E男は他児とやりとりをする姿もみられる。又、手作りのカバンにごちそうを入れて「バイバイ」と手を振り保</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テーブル、ごちそう、皿、小さなカバン、動物（口がファスナーになっている）を用意し保育者も一緒にあそんでいく。</li> <li>・子どもの言葉を逃さず丁寧にこたえながら楽しい気持ちに共感する。</li> </ul>

<p>育室の中を歩いてあそぶ姿もある。</p>	
<p>(型落とし) 「ポトン ポトン」とタッパーの蓋に開いている穴にペットボトルキャップを入れ楽しむ。N子がペットボトルキャップを5つ積み重ね、それを見ていた周りの子どもたちも真似してあそび始める。 あそんでいるうちに、タッパーの上に座るなどする子が出てくる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・タッパー、ペットボトルキャップ(4つ繋げたもの)を用意する。一人ひとりのあそぶスペースを保障し、じっくりとあそぶことが出来るよう配慮する。</li> <li>・あそび方を知らせながら、安全に楽しめるようにしていく。</li> </ul>

<考察>

～散歩～

目的を持って散歩し、また低月齢児も交替で散歩車から降りて歩く機会を作り、みんなで散歩を楽しむことができた。散歩中は子どもたちから色々な言葉が聞かれると感じる。散歩での刺激が発語への意欲につながっていると考ええる。

～広場でのあそび～

高月齢児は保育者に追いかけられることを楽しんだり石をひっくり返して虫を探す姿に運動面の発達や興味の広がりを感じられる。低月齢児はまだ歩行が不安定な子も自分の行きたい所へとゆっくりだが歩くことができ、戸外でのあそびを存分に楽しむことができた。引き続き、広場でのあそびを沢山取り入れ、子どもたちの好奇心、探索意欲を満たし楽しめるようにしていきたいと考ええる。

～砂あそび～

崩すことから保育者と一緒に作ることにあそびが変わってきていることに成長を感じる。裸足での砂あそびは、初めは嫌がる子もみられたが次第に慣れ両手両足で砂の感触を楽しむことができ、その後の泥んこあそびへの前段階としても良かった。

～水あそび・泥んこあそび～

夏ならではのあそびとして取り入れた。増えていた玩具の取り合いもあまりなく、一人ひとりが水・泥の感触を楽しむ姿がみられた。泥の感触が苦手な子もいたが少しずつ慣れてあそぶことができて良かった。様々なあそびの中で色々な感触を味わうことも大切だと考える。

～ままごとあそび～

ごちそうや皿だけでなく、小さなカバンや動物（口がファスナーになっている）を用意したことで、よりあそびに興味を持ち保育者とのやり取りやファスナーの開け閉めなどを楽しむことができて良かった。

～型落とし～

あそびに興味を持ち、タッパーいっぱいになるまでペットボトルキャップを入れることを楽しむ姿があった。しかし、あそんでいるうちにタッパーに座るなど危険なあそび方になってしまう子もいたので、一緒にあそぶ保育者の言葉かけや配慮が足りなかったと反省する。

個人差はあるが、好きなあそびをみつけて、夢中であそべるようになってきている。特に戸外でのあそびでは、歩くことを楽しみ自然物に触れながら表情良くあそぶ姿があった。広場でのあそび・砂・水・泥んこあそびをしている時は噛みつき、ひっかきがみられなかったことから、一人ひとりの好奇心を満たしじっくりとあそぶことができていると考える。室内では広告を破くことはまだ難しい様子の子もいたが、新聞紙を破いたり、シール貼り・ファスナーあそび等手指を使うあそびを好みよくあそんだ。あそべず指しゃぶりをしている子も見られたことから、その子にとっては設定したあそびが発達や興味に合わないものであり、配慮が不十分であったと反省する。

3期（9～12月）

<子どもの姿>

草花・虫に興味を持ち見つけると喜んで保育者に知らせたり、触れてあそぶ姿がある。低月齢児は足取りがしっかりしてきており、散歩車に乗るのを嫌がり歩きたがる子もでてきている。高月齢児は友だちの真似をしてあそぶ姿が増えたり友だちと関わってあそぼうとする姿が増えている分、特に室内では玩具の取り合いになることも多くなってきている。低月齢児の中にはあそべず指しゃぶりをしている子がみられる。

子どもの姿	保育者の援助と配慮
(散歩) 砂利道や農道など、でこぼこ道を少し歩きづらそうにしながらも喜んで歩く姿がある。	・靴がしっかり履けていることを確認してから出かける。 ・少し歩きづらい所も、まわりの自然

<p>どんぐり拾いにでかけ「あった」「いっぱい」「これは？」と次々に拾っておさんぽバックに入れ、嬉しそうな表情を見せ夢中になってあそんでいる。アリの行列を見つけ、「いっぱいだ」「どこいくの」と興味深そうに見る。児童公園で大きな葉っぱをみつけて顔を隠して「おばけだぞー」とあそびはじめる。保育者に葉っぱに目と口を作ってもらおうと、さらに喜んであそびだし、まわりの子も「〇〇も！」とまねしてあそぶ。</p> <p>低月齢児も足取りがしっかりしてきたので散歩車を使わず散歩に出かけるが、T男・M子・R男は手をつないで歩くことが難しい。車の通らない安全な所をととても良い表情で自由に歩くことを楽しむ姿がある。</p>	<p>物に触れたりすることで、ゆっくり楽しみながら歩くことができるよう配慮する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>一人ひとりのおさんぽバックを用意し、子どもの言葉にこたえたり共感しながら一緒にどんぐり拾いをしていく。アリの行列を見つけた喜びに共感し、子どもの言葉にこたえていく。</li> <li>大きな葉っぱであそびだした子の言葉を受け、葉っぱに目・口を作る。自分もほしいという子たちにも作り、保育者も一緒にあそぶ。</li> <li>低月齢児は、手をつないで歩くのではなく、まだまだ一人で自由に歩く経験が必要と考え目的地を園から近い所に設定し、手をつないで歩く時間を短く、目的地で自由に歩くことを楽しめるよう配慮する。</li> </ul>
<p>(広場でのあそび)</p> <p>「きいろ」「おんなじね」と落ち葉を拾ったり、「なんか きこえる」と落ち葉の上を歩いて音を楽しむ。</p> <p>「トンボいた」「まって」と追いかけてあそぶ。「まてまて しょう」と保</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>散歩リュックを用意する。体力もついてきて行動範囲も広がってきているので保育者の位置付きに配慮し安全面に留意していく。</li> <li>乾いた落ち葉の上を歩くと音がすることに気付けるよう配慮する。</li> <li>子ども同士の言葉のやり取りも聞かれるので、見守ったり仲立ちをしていく。</li> <li>走ることを好みよくあそぶので、危険のないよう配慮し保育者も一緒</li> </ul>

<p>育者に言い、追いかけるられることを喜んであそぶ。</p> <p>街地区センター裏で、R子・S子・H子が長いつるを見つけて引っ張っている。保育者が「うんとこしょ どっこいしょ」と声をかけるとS男・E男も加わりあそびを楽しむ。</p>	<p>に身体を動かし楽しめるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・秋の自然に触れ、一人ひとりの発見や言葉に共感しながら、探索を楽しめるよう言葉かけをしていく。</li> </ul>
<p>(砂あそび)</p> <p>「〇〇みたい」と見立てたり、拾ってきた松ぼっくり・どんぐりを砂の中に入れてたり、飾ったりしてあそぶ。「おいしくなあれ」「おにぎりです」「いっしょにたべよ」と保育者や友達と関わりあそぶ姿がでてきた。</p> <p>高月齢児は「いらっしやいませ」「なにがいいですか」とあそぶ姿もある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人ひとりがじっくりとあそべるよう砂場道具は数を十分に用意する。又、散歩で拾ってきた松ぼっくりやどんぐりを用意する。</li> <li>・見立ててあそぶようになってきているので、子どもの言葉に丁寧にかたえながらイメージが広がるよう働きかける。</li> <li>・言葉もずいぶん増えてきているので、簡単なやりとりをしながら砂あそびを楽しめるようにしていく。</li> <li>・松ぼっくり、どんぐり、落ち葉を使うことで、砂あそびをより楽しいあそびにしていけるようにする。</li> </ul>
<p>(ままごとあそび)</p> <p>高月齢児は「これは〇〇だよ おいしいよ」と言い他児に食べさせる真似をしてあそぶ。「おべんとう つくる」「おいしそう」と手作りの弁当箱にごちそうを沢山入れ、「いってきます」と作った弁当を持って保育室の中を歩き「ここで たべる」と他児と並んで座り食べる真似を楽しむ。低月齢児は保育者とのやり取りが主で関わりを楽しむ。</p> <p>R男・M男・T男・M子は他児が使っている物を取ってしまい度々トラブルになる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テーブル、ごちそう、皿、手作りの弁当箱、小さなカバンを用意し一緒になってあそんでいく。</li> <li>・他児との関わり方を知らせ仲立ちをする。また子ども同士のやりとりを見守り、友だちと一緒にいることが楽しいと感じられるようにしていく。低月齢児は保育者とのやりとりが主となるので、十分に関わりを持ちあそんでいく。</li> <li>・玩具を使いたかった気持ちを受け止めながらも、他児が使っていることを繰り返し伝えていく。</li> </ul>

<p>S男は「バスでおかいもの いこうよ」「ビックハウス ついた」「にんじん かってきたよ」「バスで かえるよ」と買い物に行く真似を楽しむ。周りの子も真似してあそび始める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• S男の「バス」という言葉を受け止め牛乳パックで作ったしきりを用意しバスに見立てて保育者も一緒にあそんでいく。</li> </ul>
<p>(どんぐりマラカス作り) 台紙からシールをはがしてペットボトルに貼ることを楽しむ。シールを貼ったペットボトルに、散歩で拾ってきた“どんぐり”を「いっぱい いれる」「どんぐり かわいいね」と言いながら入れていく。ペットボトルのキャップを「クルクル」と閉める。低月齢児はキャップを閉めることは難しいため保育者と一緒に行く。出来あがった“どんぐりマラカス”を保育者がうたう歌に合わせて鳴らして楽しむ。「もう っかい」と要求する姿がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• シール、ペットボトル、どんぐりを用意し、5～6人のグループに分かれてマラカス作りをすすめていく。</li> <li>• 子どもたちの言葉にこたえながら、一人ひとりが楽しんで作ることが出来るようにしていく。</li> <li>• キャップを閉めるときは閉め方を知らせたり、低月齢児には手を添え一緒に行っていく。</li> <li>• マラカスを鳴らすことを楽しめるよう「どんぐり ころころ」「きのこ」等をうたっていく。要求にこたえ繰り返したい楽しい気持ちに共感していく。</li> </ul>

<考察>

～散歩～

どの子も好きな散歩だが、一人ひとりのおさんぽバックを用意し、木の実拾いに出かけることで、より楽しむことができたと考える。時間をたっぷりとることで秋の自然にゆっくり触れることができた。又、その中で沢山の言葉が聞かれて良かった。木の実拾いは、子どもたちの好奇心、探索意欲を満たす良いあそびだったと感じる。

～広場でのあそび～

行動範囲が広がり、広場の端から端まで何度も歩いたり走る姿に成長と体力がついたことが感じられる。拾った落ち葉と友だちの持っている落ち葉を見て「おんなじね」「かわいいね」と話したり、「あげる」「はい どうぞ」とやり取りする姿もみられて良かった。

～砂あそび～

木の実を利用してあそぶ中で、見立ててあそんだり簡単なやり

取りを楽しむ姿がみられるようになった。保育者の仲立ちで、友だちと一緒にいることを楽しいと感じられるようになってきていると考える。

～ままごとあそび～

皿にごちそうをのせて食べるだけでなく、弁当を作る・カバンを持って買い物に行く真似をするなどあそびが広がってきている。その中で、保育者とだけでなく子ども同士のやりとりも出てきていることに言葉の発達だけでなく他児への関心の高まりも感じられる。

～どんぐりマラカス作り～

作っていくなかで、低月齢児には少し難しい所もあったが、一人ひとりの姿に合わせて援助しながらすすめて、どの子どもも楽しく作ることが出来て良かった。又、作った物を使ってすぐにあそぶことで子どもたちの満足感も得られたように感じる。

自然物に触れながら歩いたり、走ることを楽しめるよう戸外であそぶ機会をたくさん持った。いろいろな色の落ち葉を拾い、破いたりパラパラと降らせたりして楽しんだ。“何があるかな何があるかな”と探すように歩く姿が印象的で、みつけた時はとても満足そうな、嬉しそうな表情をみせてどの子どもも夢中になってあそぶことができた。また、足どりもしっかりしてきて散歩車を使わずに歩いて散歩にでかけるようになり、「おさんぽいく」「でんしゃみにいく」と子どもたちも歩くことをとても喜んでいて。室内では、難しかった広告紙破きができるようになってきたり、低月齢児もシールを台紙からはがすことができるようになってきたりと出来ることが増えてきて、集中してあそぶことができる時間も少しずつ伸びてきていると感じた。

4期（1～3月）

<子どもの姿>

室内でのあそびが主となり様々な手指のあそびを楽しむが、月齢差が大きいため、あそびの内容によっては高月齢児と低月齢児で活動を分ける必要がある。身体リズム運動あそびでは0・2歳児とだけでなく、4歳児とも一緒に行い以上児との交流も楽しんでいる。高月齢児は、言葉でしてほしい事したい事を保育者に伝えるようになっている。

子どもの姿	保育者の援助と配慮
<p>(雪あそび)</p> <p>ソリに乗り、保育者に引っ張ってもらい楽しむ。保育者の真似をして、友だちを乗せて引っ張って歩く (M子・S子・A子) 姿もある。小さな雪の坂をソリやお尻で滑り降りることを楽しむ。「おにぎり」「ゆきだるま できたね」と保育者と一緒に雪に触れることを楽しむ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・防寒具、ソリを用意し体調を見ながらあそびを進めていく。滑りやすくなっている所では転倒に十分注意していく。</li> <li>・子どもをソリに乗せて引っ張って歩いたり、雪に触れ楽しくあそぶことができるよう言葉かけをしていく。</li> <li>・ソリ滑りでは、危険のないよう十分に気をつけながら、存分にあそぶことができるように配慮する。</li> <li>・楽しい気持ちに共感し、子どもたちの言葉に丁寧にこたえながら、見立ててあそぶことを一緒に楽しんでいく。</li> </ul>
<p>(散歩)</p> <p>友だち、保育者と手をつないで歩くことを楽しむ。「バスきたよ」「トラックおっきいね」「〇〇もトラックのりたい」と話しながらゆっくりと歩く。</p> <p>近所の人に会うと、「こんにちは」「ぼくたち いまおさんぽしてるの」と喜んで話す姿もある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・散歩リュックを用意し、一人ひとりが靴をしっかりと履けているか確認してから出かける。春の自然に触れられるコースを選ぶ。</li> <li>・友だちや保育者と手をつないで歩くことを楽しめるように、言葉かけをしたり歌をうたいながら歩いていく。子どもたちの言葉に丁寧にこたえていく。</li> <li>・近所の人とのふれあいを楽しいと感じられるように見守り、言葉かけをしていく。</li> </ul>
<p>(ままごとあそび)</p> <p>ペットボトルに花紙を入れ、ジュース作りを楽しむ。ジュースを持ち、他児と「かんぱい」と乾杯をして飲む真似をしている。</p> <p>保育者が「いらっしゃいませ」とジュ</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ペットボトル、様々な色の花紙を用意し、ジュース作りを保育者も一緒に楽しんでいく。</li> <li>・子どもたちが作ったジュースをテー</li> </ul>

<p>ース屋さんになると、「これがいい」「ちょうだい」「ありがとう」「おいしい」「あまいね」と楽しんであそぶ。保育者の真似をして「いらっしゃいませ」「なにがいいですか」「これどうぞ」「あまいのはこれです」「こっちはすっばいよ」と子ども同士であそび始める。買ったジュースをカバンに入れて嬉しそうに持って歩く。</p>	<p>ブルに並べ「いらっしゃいませ」とジュース屋さんを開き、子どもとのやりとりを楽しんでいく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>•保育者の真似をしてジュース屋さんをする姿を見守り、様子を見ながら援助し子ども同士の関わりを楽しめるようにしていく。楽しい気持ちに共感していく。</li> </ul>
<p>(コマ作り)</p> <p>牛乳パックの底の部分にシールを貼りコマ作りを楽しむ。</p> <p>出来あがったコマをまわしてあそぶ。「クルクルできたよ」「せんせいみて」とまわしてあそぶ姿がある。低月齢児の中には、初めはうまくまわすことが出来ない子もいたが繰り返してあそぶ中でまわすことが出来るようになった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>•牛乳パックの底を切り取り準備する。6人ずつグループごとに作っていく。コマの持ち手部分(ペットボトルキャップ)は保育者が付ける。</li> <li>•保育者がまわしてみせ、興味を持ち楽しめるようにする。自分でまわすことが出来た喜びに共感していく。低月齢児には、手を添えまわしかたを知らせていく。</li> </ul>

<考察>

～雪あそび～

子ども達の体調や天候をみながら無理なく行うことができた。保育者の真似をして「〇〇ちゃん のって」と友だちをソリに乗せ引いて歩くことを楽しむ姿に、足腰が丈夫になったことが感じられる。又、雪玉をおにぎり等に見立てて保育者とだけでなく友だちとのやり取りを楽しむ姿に成長が感じられた。一年を通して戸外でのあそびは、子どもたちにとって魅力的で好奇心を満たす活動だと考える。

～散歩～

楽しく歩きながら目にしたものを「〇〇だよ」等と友だちと話す姿や近所の人に子どもたちの方から挨拶したり声をかける姿が多くみられた。

～ままごとあそび～

保育者とのやり取りが主だった子どもたちも、他児とのやりと

りが増えてきていることに成長を感じる。ままごとあそびで使うジュースを保育者が作ってしまうのではなく、子どもたちと一緒に作ったことも良かった。

～コマ作り～

手指を使って作り、コマをまわすあそびでも手指を使い十分に楽しむことができた。

室内ではおもちゃを並べて「おにぎりやさんです」「いらっしやいませ」「ドーナツあるよ」と見立てたり、保育者とだけでなく、保育者を仲立ちとして子ども同士の関わりも楽しめるようになってきている姿に成長を感じる。関わりが増えてきているが、ちょっとしたことですぐにトラブルになる。

## 7、研究の結果と考察

- ・ 子ども達の気持ちに共感しながら好奇心や探索意欲を満たすあそびの工夫をすすめてきたことで、情緒が安定し安心して過ごせるようになっていくとともに室内でも戸外でも好きなあそびをみつけて保育者と関わりながら楽しくあそべるようになっていった。このことから安心できる人（保育者）・場所・物があってこそ探索意欲が高まり、1歳児にとって大きな意味を持つ探索活動が楽しめるのだと考える。
- ・ 様々なあそびを楽しむ姿から、1年間を通して行ってきた探索活動が、遊びだす力を育て、活動のエネルギー源となっていると考える。
- ・ 散歩では少しかぼこした所、坂道、砂利道等を歩いたり、広場を歩いたり走ることを楽しむ中で足腰も丈夫になった。また、身体リズム運動あそびを取り入れてきたことも運動機能の発達につながっていると考え。
- ・ 戸外あそびや室内で手指を使うあそびをし、保育者と驚きや喜びを共有し意欲的にあそぶなかで、様々な言葉を獲得していった。色々なあそびの中での子どもの言葉を丁寧に受け止めること、共感することが言葉の発達につながったと考える。
- ・ 様々なものに興味を示し触ってみたいやってみてみたいという気持ちが高まり、探索活動を楽しむ中で象徴機能が発達し「見立て」や「つもり」につながったと考える。
- ・ 室内あそびでは、危険の無いよう環境を整えながら子ども達が手作りおもちゃ等に興味を持ち楽しめるよう取り出しやすい所に置いたり、あそびの設定や保育者の関わり工夫、時には高月齢・低月齢やその日の子どもの姿・体調等を考慮し、2グループに分かれての活動にするなど担任間で連携を取りながら保育をすすめることで、一人ひとりの興味・発達にあった

あそびを保障することができたと考える。

## 8、今後の課題

- ・ 1歳児は月齢差、個人差が大きいので一人ひとりの発達段階を捉え、保育をしていくことが大切になる。そのためこれまで以上に担任間で一人ひとりの成長の様子を確認しあいながら保育にあたっていきたい。
- ・ あそびに興味を示さず、指しゃぶりをしている子がおり、その子にとっては発達や興味に合わない活動になってしまったことが大きな反省点となり、一人ひとりの発達や興味をより細かく把握していく事の大切さを痛感させられた。一人ひとりの発達をしっかりとみて、興味関心を持って楽しめるあそびを考えていきたい。
- ・ 探索活動を通して、様々な発見の中、新しい行動を獲得し保育者に褒められ認められることで“自分もできる”という気持ちを持ち、自信を得て自発性を高めていくことが、1歳児の発達に大きく影響することをしっかりと捉え保育をすすめていきたい。
- ・ 今後も子ども達の好奇心や探索意欲を満たすあそびを探り、工夫をしながら運動面の発達・言葉の発達へつなげていきたい。

### \* 引用文献、参考文献

- ・ 保育所保育指針
- ・ 「1・2歳児の保育」……保育雑誌
- ・ 「0・1・2歳児の心の育ちと保育」今井和子著